

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	中央図書館		■担当係	奉仕係
■評価事業名称	読書推進事業			
■評価事業コード	402100 - 003	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり		
	■基本施策	02 社会教育の充実		
	■施策	03 社会教育機能の充実		
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	図書館法第三条・北上市立図書館規則第11条			
■関連計画の名称				
■事業の概要	幼児から一般まで市民の読書の習慣化を涵養する。おはなし会・展示事業・体験「1日図書館司書」・子ども映画会・読書のつどい・図書館ボランティア・図書館資料展と講演・読書ボランティアグループ発表交流会			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成 26 年度事業計画	平成 26 年度事業量実績
01	おはなし会(中・江・和)	乳幼児年間開催回数	開催回数参加者数	「おはなし会(石ころお絵かき・としよカード入れづくり含む)・おはなし会SP」開催数 24回 参加者数 475人「クリスマスおはなし会」開催数 1回 参加者数 23人
04	展示事業	幼児・児童・一般	入場者数	「岩手のスポーツ人列伝展」入場者数 172人「岩手の酒造りと食文化展」入場者数 117人「手づくり絵本展」入場者数 371人「大型えほん展」入場者 カウントせず「本の掲示板」展示数 30件「夏まつり展示」入場者 カウントせず「東日本大震災 北上市立図書館の3.11」入場者 カウントせず「まニテーマ展」利用者 カウントせず
07	図書館収蔵資料展と講演会	成人	入場者数	「収蔵資料展」入場者数 387人「講演会」入場者数 25人合計 412人
09	体験1日図書館司書	小 高学年	開催数体験者数	開催数 夏休み・冬休み 2回体験者 12人
13	子ども映画会	小学校 低 幼児	開催回数入場者数	「子ども映画会(通常・SP)・移動映画会・出前講座」開催数 19+1+3=23回入場者数 684+55+267=1,006人

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

14	読書のつどい 図書館探検 隊(中)	小学生 保護 者	参加者数	「読書のつどい」参加者 28人「図書館 探検隊」参加者 6組12人
15	絵本ふれあ いボランティア ・書架整理 ボランティア	幼児	活動回数 活動人数	「絵本ふれあいボランティア」活動回数 49回 延べ活動人数 87人 利用者 263 人 「書架整理ボランティア」活動回数 87 回 延べ活動人数 152人
20	読書ボラン ティア発表交 流会	読み聞かせボ ランティアグ ループ・学校 図書館ボラン ティアグループ	参加者数	参加者数 46人
21	対面朗読	視覚障害者		開催回数 4回 利用者数 延べ4人 盲訳 奉仕員数 述べ8人
22	図書館クリ スマスディ スプレー	中学生		開催回数 1回 参加者数 16人
23	貸出福包み	幼児・児童		開催回数 1回 利用者数 32人
24	BOOK救命 隊	中学生		開催回数 1回 参加者数 22人
25	おとな名画座	一般		開催回数 6回 出席者数 322人
26	健康劇で楽し く学ぶこころ の健康ミニ講 話	一般		開催回数 1回 参加者数 12名

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考
直接事業費	248	218	287	1,716	
人件費	12,515	7,444	10,822	15,675	
その他(公債費・ 減価償却費等)					
フルコスト	12,763	7,662	11,109	17,391	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

指標コード	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	指標の説明
01	事業数	14事業	13事業	18事業(新5)	25事業(新5)	市民各層にむけ新たな事業を実施した。(5事業)平成25年度以前から行っていた事業についても追加した。
02	開催数	65回	200回	204回	213回	事業の見直しにより開催数が増えた。
03	事業の参加者数	1,639人	2,208人	2,784人	3,622人	各事業の参加者合計
04	1事業あたりコスト	912千円	589千円			
05	開催数当たりコスト	196千円	38千円			

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■ 目標達成状況

A. 順調

B. 概ね順調

C. 遅れている

達成状況の分析

利用者のニーズをふまえながら、新しい事業を行っており、継続している事業についても改善をはかりながら行っている。読書推進をはかるため様々な機会を提供できている。

問題点・課題等

職員体制。効果的な周知方法。図書館を利用しない市民への働きかけ。

1. 直接的な受益者の範囲

不特定多数に及ぶ

特定されるが多数に及ぶ

特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

大きな不利益やリスクが生じる

ある程度の不利益やリスクが生じる

不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

類似の事業はない

類似の事業はあるが競合はない

類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

ニーズが高まっている

ニーズは変わらない

ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

先進的またはユニークな事業である

他と同程度の事業である

遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

民間委託等の拡充は難しい

民間委託等の拡充が十分に可能

全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

今以上の効率化や改善は難しい

効率化や改善を図ることは十分に可能

効率化や改善の余地が大きい

■ 今後の方向性

I. 拡充

II. 継続

III. 縮小・要改善

IV. 民間活用・協働事業化

V. 廃止・休止

VI. 完了

補足説明